

番組審議委員会議事録

松竹ブロードキャスティング株式会社

- 1.開催年月日 平成 27 年 12 月 4 日（金） 12：00～13：30
- 2.開催場所 銀座東武ホテル
- 3.委員の出席 委員総数 7 名
出席委員数 6 名（田中康義、伊藤信太郎、堀江ミエ子、
松本淳、松本行央、太田博）
欠席委員数 1 名（坂田藤十郎）
- 4.放送事業者側出席 5 名（井田寛[代表取締役社長]、山崎克己[顧問]、
藤本弘之[取締役・編成宣伝担当]、鶴澤由紀[衛星劇場部編
成・宣伝部長]、松野俊一[ホームドラマチャンネル部編成
担当プロデューサー]）

5.議事の概要

- ・ 経営、営業報告
- ・ 衛星劇場の現状報告
- ・ ホームドラマチャンネルの現状報告
- ・ 質疑応答

6.議事内容

○経営報告

- ・ 2015 年も多チャンネルマーケットは相変わらず厳しい状況が続く。
- ・ 衛星劇場は、前年比で 95%と苦戦が続く。そんな中ホームドラマチャンネルは、前年比 103%となり、目標をクリアする予定。
- ・ 今年 1 年間かけて両チャンネルとも、松竹 120 周年の特集を企画。10 月くらいからその効果が出て、加入が増えてきた。それによって、衛星劇場は前年並みの加入が取れてきた。
- ・ ホームドラマチャンネルは、500 万世帯を目指す、最終的には 480 万強くらいで落ち着くのではないかと。要因としては、スカパーのマイナスをケーブル、IP でカバー出来ていないことがあげられる。
- ・ 11、12 月の「母と暮せば」公開記念特集で盛り返し、数字を伸ばして、昨年

並みかそれ以上の結果を出せることを期待している。

- ・ワークショップの映画製作では、第1弾の「滝を見に行く」が昨年公開、第2弾の「恋人たち」が今年11月に公開した。3、4週目ではあるが、順調に推移している。
- ・さらに第3弾「東京ウィンドオーケストラ」はすでに撮影が終了していて、第4弾は、ユン・ソクホ監督の初劇場公開作品で、衛星劇場の25周年の企画として動き出す。すでに120人程度の応募もあった。
- ・新たな取り組みとして、「えいげき亭」という落語会をすでに2回開催した。衛星劇場で落語を放送していることが、なかなか浸透していかないのが、自ら落語会を開催し、認知してもらうように努めた。
- ・プラットフォームが厳しい中で、我々の事業も視聴者になり得る方たちがいるところに、出向いていくようなことも始めていった。

○衛星劇場チャンネル

- ・邦画、韓流、舞台の3本柱を軸に放送。韓国ドラマは加入の中心であるが、さらにその中でもS級、A級を獲得するような努力を続けている。出演者で言うと、東方神起やチャン・グンソクが出演している作品は、加入動機として挙がってくる。最近では、韓国のWebドラマも出てきていて、放送してみると、かなり加入につながった。
- ・今後も毎月“日本初”のドラマを獲得し、加入につなげていくようにしていきたい。
- ・8月以降は、バラエティ、ライブものを増やしていった。1月にはKARAのJAPANツアーの放送を予定している。
- ・邦画では、今年は松竹120周年を中心に編成してきた。2月から5月はヌーヴェルヴァーグ、8月には「桃太郎 海の神兵」、11月には「松竹はじめてものがたり」として、トーキー、カラー、3Dの放送をした。11月に放送した「夏子の冒険」は、音声部分が欠落していたところを、字幕をつけることで放送することが出来た。12月の山田監督特集、12月から2月まで原節子追悼特集を編成していく。
- ・歌舞伎は、ファンには認知されるチャンネルになってきた。ワンピース歌舞伎の上演に合わせて、2月にはコクーン歌舞伎、3月にはスーパー歌舞伎の放送をしていく。
- ・現代劇の舞台でも、井上芳雄、TEAM NACSなど若い人に人気の舞台も放送することで、加入きっかけの動機にあがって来ているので、効果があった。
- ・11月に「コードネーム U.N.C.L.E.」の公開に合わせて1960年代に放送された「0011 ナポレオン・ソロ」を当時放送されなかった話数も含めて放送し

たところ、これが加入きっかけにもなった。こういうことをやり続けていくことが大事なことである。

- ・来年の4月に設立24年、12月には放送開始24年となる。そこで4月からは衛星劇場開局25周年ということで、大々的な企画をやっていく。その中でも、衛星劇場でしか見ることができないような作品をこれからも放送していく。

○ホームドラマチャンネル

- ・韓国ドラマ、時代劇、国内ドラマの3本柱を中心に編成。
- ・夏に一時失速したが、J:COM視聴率に関しては10位以内をキープしてきた。
- ・韓国ドラマはベーシック初放送を基準に編成。その効果が出た感じで、韓国ドラマの視聴率は好調をキープしている。その中でもイルイルドラマが好調。11月から放送になった「不屈の婿」は、以前放送して好評だった「不屈の嫁」の第2弾。
- ・時代劇は、松竹作品の「鬼平・剣客・必殺」シリーズをメインに放送しているが、来年1月からは東映の時代劇も放送していく。第1弾としては、千葉真一主演の「柳生一族の陰謀」を編成。
- ・国内ドラマでは、今まではフジテレビのCS初作品を中心に編成してきたが、来年にかけて、テレビ東京の深夜枠の作品も編成していく。12月に放送が始まる「リミット」は、CS初放送で、今話題の土屋太鳳、窪田正孝が出演している。他にNHK作品で、本仮屋ユイカ、市川猿之助出演の「そこをなんとか」もCSで初放送。フジテレビ作品以外も放送していくことを見せていく。
- ・松竹120周年特集の一環として、6月からは以前も放送した「木下恵介アワー」を、改めてハイビジョンにして放送した。10月からは「赤かぶ検事シリーズ」も放送している。どちらも松竹テレビ部が製作に関わった作品。
- ・毎月の特集では、衛星劇場との共同企画を行ってきた。ドラマを中心に盛り上げてきた。
- ・年末年始、ゴールデンウィークの特別編成も行い、今年のゴールデンウィークは、「鬼平犯科帳3DAYS」ということで、3日間連続で放送した。こちらはかなりの視聴率が取れて、J:COM視聴率2位という結果を出すことが出来た。この結果を受けて、来年のゴールデンウィークも同じような施策が出来ればと企画中。今年の年末は、5日間で毎日違うジャンルの作品を編成。

○質疑応答

Q:歌舞伎の中継で役者の名前が分からないことが多いが、入れることはできないのか？

A:最初にはロールで名前を明記しているので、途中で名前を出すことは、知っている人からすると、かなりクレームの対象になってしまうので、現状は難しい。歌舞伎に関しては演劇部が主導で、そこで撮ってもらったものを放送するような形になっている。

Q:原節子さんが亡くなりましたが、すぐに特集を組むようなことは出来ないのでしょうか？

A:有料放送なので、今ある編成を変えることはとても難しい。変わったことを知らない人もいますので、クレームの対象になってしまう。3回のうちの2回目だけを差し替えるようなことで対応した。

Q:加入きっかけとしては、どのジャンルが多いですか？

A:やはり韓流がメインである。しかし、昔に比べると、その山が小さくなってきていて、新しい人が加入しなくなっている。

Q:テレビ東京でやっている「釣りバカ日誌」は、映画よりも面白いと思うが、今後放送の予定はあるの？

A:放送する方向で話は進めている。ドラマが面白いと思うのは、映画をやってきたからの面白さもあると思う。

Q:24年前の放送開始当時と、業界の構造が変わってきてしまっている。放送と通信の融合というよりは、コンテンツをどう使うかということに、マーケットが移動してしまっている。今の形のビジネスモデルとしては、どうなのか？ ネットフリックスなどにも対応した形を考えていけない時期に来ているのではないか。

A:マーケットを黙ってみているだけではなく、放送事業は今まで通り力を入れてやっていくが、日本最大のゲーム情報サイトを運営しているアエタスの株を取得し、広告という形で情報番組や攻略番組を作って、視聴者に見てもらいたいようなサービスを始めていきたい。

○その他

- ・番組審議委員の田中康義先生から退任の希望があり、了承される。

以上